

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600205		
法人名	社会福祉法人 幕別真幸協会		
事業所名	グループホーム くつろぎの家		
所在地	帯広市西1条南28丁目4番地1		
自己評価作成日	平成 26年12月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600205-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成27年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

くつろぎの家の理念「私たちは、一人ひとりに寄り添い、地域と共に安心して笑顔で暮らせる『家』に致します」の言葉を毎月スタッフ会議の時に暗唱し、入居者様の個性・能力を生かせるように支援しています。また、出来ることは本人の能力に合わせながら軽作業、漬物作り、洗濯干し・たたみ等をして頂き、環境整備にも取り組んでいます。今年は、中々難しくなってきた全員での外出・外食にも眼を向け、積極的に取り組んでいます。利用者様の誕生会、行事も並行して行っています。地域交流として、保育所慰問、町内会の行事参加、近所にある居酒屋にもお邪魔をするなど交流を深めています。また、利用者様に馴染みの深い温泉にも出かけて大変喜ばれている所です。スタッフの向上研修として、感染時の対応や最期の看取り研修にも積極的に取り組んでおります。

当事業所は、自然環境と商業施設に恵まれた住宅街に位置している。母体法人は多くの介護保険関連事業を運営し、法人内で毎月研修を行って情報交換を行い、事例を共有しながら質の高いケアを心がけている。職員は笑顔で優しく「地域と共に安心して笑顔で暮らせる『家』になるよう、利用者一人ひとりに寄り添い、風船バレーなどレクリエーションを兼ねた運動で生活の中でリハビリを取り入れて、体調が悪くならないよう気をつけている。居間は明るくゆったりした家庭的雰囲気、季節感ある飾りつけ、行事の写真を飾り、利用者は、能力に合わせ漬物作りや洗濯物片付け、花や野菜を育てたり、会話をしながら自分らしくのんびりと過ごしている。町内会行事への参加や保育所の運動会・学習発表会への参加等、地域との交流を利用者が楽しんでおり、特に、園児との交流が利用者の表情を明るくしている。家族交流会や利用者の誕生日会等に家族に参加してもらい、利用者を事業所と家族で支えていけるように配慮している。利用者は地域の人々、家族に見守られながら、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、職員が小まめに気を配り、毎日を生き生きと暮らせるよう利用者目線で暖かく見守っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は、職員一人ひとりが認識出来るようスタッフルームに掲示している。また、スタッフ会議時、全員で唱和し実践している。	独自の事業所理念を作ってスタッフルームに掲示し、会議の都度唱和して共有を図っている。「笑顔で過ごせる家」の理念を実践して、職員は利用者に対して明るく、笑顔で対応している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年も町内会に加入し、焼肉、親睦会、保育所の学習発表会等にも積極的に参加している。今年、近所にある居酒屋にも訪問した。	町内会に加入し、焼肉、親睦会、保育所の学習発表会等に参加し交流している。近所にある居酒屋に出かけて、食事を楽しみながら交流した。地域に長く居住している大家との繋がりで近隣との交流が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問行事、ボランティアの方に来て頂き交流を深め理解をして頂いた。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き実施している。利用者、ご家族、町内会会長、地域包括センター、他のグループホームの職員に参加して頂きサービス向上に繋がった。	民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族等が参加して年6回開催し、事業報告、運営状況などについて話し合い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。防災訓練にも参加している。	運営推進会議は、家族、地域の人たちが運営を見守ったり、協力者として助言するなど運営上重要な意味、役割を果たす会議として位置づけられていることから、多くの関係者が参加し、活発な意見をもらう工夫をして、サービス向上に繋げることを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要時は連絡を取り合っている。電子メールでの発信もあり、その都度チェックを入れ印刷を掛け意識向上している。	市担当者とは訪問・電話・メール活用など様々な方法で連携している。誤薬(飲み忘れ)などの事故報告をして、時には指導を受けることもあり、ケアの質の向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	くつろぎは、現在も施錠せずに玄関を開放している。利用者が外に出た時も、静止せず後ろから見守り、本人が納得するまで付き添っている。身体拘束をしている方はおらず、スタッフにも社内研修に参加してもらっている。	職員は、利用者の状況を常に見守って、無断で外に出た時も、静止せず後ろから見守り、又は寄り添って、本人が納得するまで付き添っている。拘束をしないケアについて社内研修に参加しており、現在身体拘束の実例はない。玄関は開放しているが、夜間は防犯のために施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が軸になり、スタッフに問いかけ、話し合いを持って意識向上を図った。社内研修にも積極的に参加してもらった。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用している方はいないが、認知症の方が増えてきており必要とされてきている。スタッフも後見人制度の研修を受け、理解を深めることが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には本体の職員も必ず同席しており、その上で利用者やご家族にしっかりと理解・納得していただけるよう十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時や手紙・電話連絡等で利用者の状況を報告している。また、玄関先に苦情受付窓口の情報を掲示している。	年4回発行の「えがお」でイベントなど事業所や利用者の状況を報告して、家族交流会、家族との面会時に情報を交換しながら意見や要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議時や現場で職員の意見を聞いている。スタッフはそれぞれ担当を持っており、会議時等で自分の意見が発言できるように促している。	管理者との面接、職員会議など様々な機会に職員の意見を聞いている。職員はそれぞれ担当を持っており、会議で発言の機会が与えられる。職員提案に対する表彰制度を設けるなどの工夫をして、職員からの提案を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、スタッフとの面談を実施し職場環境の整備に努めている。スタッフ一人ひとりに目標を立ててもらい向上心を持ってもらう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加や、法人内で毎月行われる研修を通し、学びの機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、他のグループホームの方々と意見交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にグループホーム内を見学していただき、その際にご本人やご家族からお話を充分に聞かせていただいている。そこからニーズを把握して支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員の方から声をかけ、不安なことや要望等がないかを聞かせていただいている。ご家族と信頼関係を築いていけるように、常に話しやすい雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向をお聞きし、他のサービスを希望された場合には各機関で連携を図り、適切なサービス利用が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意見を尊重し、利用者一人ひとりの個性や特技を活かしながら支え合い日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも家族交流会や利用者の誕生日会等に参加していただき、絆を大切にしている。面会時や毎月の手紙、電話等で利用者の状態をお話し連携をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒にアルバムを見て利用者の昔話を聞いたり、利用者の住んでいた近くに散歩に行くなど馴染みの人やものに触れる機会を作っている。	家族に用意してもらった昔のアルバムと一緒に見て、会話をしながら、昔の話をしてもらい、懐かしさや思い出に浸ってもらっている。職員は、同じ思い出を繰り返し語る利用者へ、初めて聞いたような様子で耳を傾けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士でお話をしたり、利用者の方々と職員と一緒にするトランプやカルタ等レクリエーションを通じて利用者同士が関わり合い、関係が深まるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本体に入所後、不安にならないようスタッフが時々顔を出し安心してもらえるように努めた。また、ホームに来てもらい馴染みの利用者、職員と一緒に食事を開きその様子をご家族にお知らせした。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の希望を尋ねたり、日々の生活の様子から希望や意向に添えるように努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討している。帰宅願望がある時には、実現に向けて家族と小まめに相談と連携を行って、願いを叶えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子や好み等ご家族に伺ったり、前入居施設に問い合わせを把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々細かく記録したり、行動を観察して出来る事、出来なくなった事等を把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度又は状況の変化に応じてモニタリングを行い、ケアプランを見直している。現状等に関しては、スタッフ間でカンファレンスをしている。	利用者、家族の要望や医師の所見を踏まえて、利用者の現状等に関してスタッフ間でカンファレンスをして、担当者が介護計画を作成している。3ヶ月に一度、変化があればその都度、モニタリングを行ってケアプランを見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に細かく記載し、ケアの変更等については別の申し送りノートで共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族と相談しながら希望に応じられる様、柔軟に支援できるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や町内行事への参加、町内会の方々に招待する等、活動の場を活かし支援している。地域のボランティアによる慰問・演芸訪問がある。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望される医療機関を受診している。家族が付き添う場合は日々の様子がわかるように書面で伝えるようにしている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を大事にしている。基本的に職員が通院同行し、利用者と医師との関係を把握して、診療結果を家族に伝えている。家族同行の場合は利用者の日々の様子を書面化して伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の特養より看護師が週に1度来訪し、健康チェックをしている。利用者の状況について相談し、その都度指示等を受け、お互い把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に訪問して状況確認や退院の目途等を医療関係者と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の方針を説明し、同意を得ている。状況が変化する度に家族の意向や今後について相談し方針を共有している。	契約時に重度化した場合の事業所の方針を説明し、同意を得ている。看取りの必要性が現実化した時には、医師の見解をもとに家族の意向や今後について相談し方針を共有している。看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備えてマニュアルを作成し、対応できるようにしている。毎日オンコール体制をとり対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災訓練計画書を策定して全職員が避難できるように夜間を想定した訓練を行っている。地域住民にも協力をお願いし、参加して頂いている。	年間の防災訓練計画書を作成して、全職員が利用者を円滑に避難させられるように、夜間想定など様々な事例を想定して訓練を行っている。近所に住む大家や町内会長など地域住民にも声をかけて、協力と参加をしてもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ馴れしい言葉かけや態度にならないように、常に目上の人であるという意識を持ち接している。	職員は、利用者を常に人生の先輩と敬い、馴れ慣れしい態度、言葉、安易な丁寧語は慎んでいる。呼びかけにも名前の使用や苗字の使用など、個別に工夫し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や軽作業、ぬいもの等本人のしたい時にできるように対応している。自己決定の難しい方にも本人の思いに沿ったケアを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望をできるだけ優先させ、職員が柔軟に対応できるようにしている。利用者の習慣にも配慮してケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容でのカットやパーマ、染髪のをケアを行ったり、利用者の好みに合う衣類を購入したり、家族にお願いしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって食事は一番の楽しみとなるため、季節に合った食材を使用し、個々の嗜好にも配慮している。食事の準備も無理強いをせずに行ってもらい、得意分野を発揮してもらえるように心掛けている。	旬の食材を利用し、好みに合った食事を提供するように心がけている。味見、配膳、片付け、洗い物など無理強いはしないが、得意なこと、できることを可能な限りしてもらおうように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分は毎食記録し目標量に努めている。本人に合った食事摂取をしてもらっているが少ない方は高カロリー補助食を利用して栄養状態を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け介助は行っている。就寝前には義歯を洗浄剤に浸けてもらい消毒してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックも毎日行っており、回数等個々のチェック表に記入を行い排泄パターンを把握している。排泄の自立に向けて毎日体操をし、筋力維持を図っている。	排泄チェックを行い、回数等をチェック表に記入して、職員間で共有して、排泄パターンを把握している。適時に排泄を促して、トイレでの自立排泄を支援している。布パンツへの改善した例も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも毎日行い、便秘にならない様に食物繊維を取り入れた食事を提供している。体操や散歩で自然排便に繋げられる様に心がけている。場合によっては下剤を処方してもらって排便を促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴できる様に支援しており希望に合わせて無理強いはせず、時間や日にちをずらして対応している。入浴中は、ゆっくりと湯船につかって頂きながら職員と会話する楽しみの時間になる様配慮している。	週に2回の入浴を基本としている。無理に勧めずに、希望に合わせて時間や日にちをずらして対応している。職員と会話したり、歌を歌いながら、ゆったり気持ち良く湯船につかって、入浴が楽しい時間になる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は軽作業や散歩、趣味活動への声かけをし活動的に過ごして頂ける時間を設けている。夜間は就寝時間をきめず、その人の習慣を尊重し入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては職員全員が理解できるよう努め、職員が管理している。疾患や服薬状況、量、利用者の変化があれば、医師と相談し薬の量調整を行い薬に頼らないケアを心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせた役割ができる様に支援している。楽しみや喜びのある生活が送れる様に、外食や、自由献立等食事に力を入れ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に町内を散歩し週に三回利用者様と散歩やドライブをしながら、足湯へ行ったりと外出する機会の支援につとめている。又利用者様全員で本体特養のバスを貸し切り遠くまで外出したり、保育所訪問、季節ごとの祭りにも参加している。	町内の散歩を頻繁に行い、足湯や花見へ行ったりと季節を味わいながら母体法人のバスで外出している。利用者全員で遠くまでドライブすることもある。また、近所の保育所訪問、季節ごとの祭りにも参加するなど極めて多様に、多く外に出て、利用者がリフレッシュできる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人自ら金銭管理する事が難しいため施設側で管理している。買い物等ご本人の希望時に、職員の付き添いのもと、自ら支払って頂き買い物の楽しみや達成感を実感して頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時には、電話ができる様に、ご家族とも連携しいつでも対応できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物を改造した構造上不快な音や光を防ぐ事の出来ない制約があるが、家庭的な雰囲気の中で季節ごとの飾りつけや行事時の写真やご家族との写真を貼り、見て楽しみを感じて頂ける様な空間作りを心がけている。又皆様がい心地よくいつでも気軽に過ごせる様に工夫をしている。	小さいが吹き抜けがあるため、開放感がある明るい共用空間である。クリスマスやひな祭りなど季節ごとの飾りつけや行事の写真や家族との写真を壁に貼って、季節感や親近感あふれる、見て楽しめるような空間作りを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士や一人になりたい方のためにソファやテーブルの位置等の居場所の工夫をしている。花や植物を置いて、手入れする楽しみを持てるよう生活感のある環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様が使用していた馴染みのものやご家族との写真、御本人の趣味に合わせて、花や縫いぐるみを飾り、自分らしく落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	家族の協力を得ながら、自宅で使っていた使い慣れた整理ダンス、仏具、小物を持ち込んでもらっている。家族の写真やぬいぐるみ、趣味の自作の作品を飾って、居心地よい空間になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかる様に貼紙を貼ったり、居室に名前を貼り、迷わず居室へ戻れる様配慮している。一人ひとりそれぞれ出来る事を活かし、自立した生活が送れる様に支援している。		